

分野名		生体制御医学分野							
科目名		先進呼吸器外科学							
英文科目名		Advanced Thoracic Surgery							
担当教員	研究指導教員	浦本秀隆教授							
	科目担当教員	本野望講師							
代表的な研究課題		胸部悪性疾患の診断と治療の研究							
		肺癌に対する胸腔鏡下ICG蛍光ナビゲーション肺切除術に関する臨床応用							
		肺癌術後再発を予測する因子同定に関する研究							
学修目標	一般目標	呼吸器外科学研究の立案を行い、研究を実行し、論文を作成し、博士（医学）の学位取得の評価を受ける。							
	行動目標 (DPとの関連)	呼吸器外科学の臨床、実験からテーマを設定し、臨床、実験の具体的立案を行い、それに基づいて臨床・実験研究を実行し、データ解析を行い、論文を作成し、外部評価を受けることができる。 論文について審査を受け、博士（医学）の学位を申請できる。						(DP1・2・3・4)	
	学位授与方針 (DP)	DP1：医学・生命科学全般にわたる幅広い学識と生涯にわたり自立して研究活動を継続する能力を有している。							
		DP2：高い倫理観と高度の専門知識を有し、最先端の医学研究を企画・立案して遂行する能力を有している。							
DP3：独創的な学術論文を論理的、かつ明確に記述して公表し、国内外の学会において発表し討議する能力を有している。									
DP4：科学的技能を活かして、地域医療から国際保健・医療まで医療全般の進歩に貢献し、次世代の研究者育成にも貢献する能力を有している。									
教科書		標準外科学 第15版 北野正剛監修 医学書院 2019							
		呼吸器外科学 第4版 正岡昭監修 南山堂 2009							
		肺癌取り扱い規約 第8版 日本肺癌学会編 金原出版 2017							
準備学習	内容	上記教科書を読んで、疑問点を抽出しておくこと。							
	時間	20分/1回の授業あたり							
課題に対するフィードバック		レポート等の課題を提出させた場合は、内容のチェック・添削を行い、本人へフィードバックして理解度のアップをめざす。							
評価方法等	評価方法	立案した臨床・実験研究について指導教員が内容を吟味する。データ解釈、および作成された論文について学会で発表し、外部評価を受ける。関連する文献を抄読し、まとめて発表する。作成した学位論文の審査を受ける。							
		評価配分：出席状況 50%、討議 50%							
	成績評価基準	教育要項22頁[成績評価・単位認定方法等]参照のこと							
科目番号		講義	5020701	演習	5020702	実験実習	5020703	特別研究	50501030
単位		4		4				6 (2-4年次で)	
		30コマ	60H	60コマ	120H	60コマ	120H	30コマ	60H
開講時期		通年		通年		通年		通年	
配当年次	主科目とする場合	1または2年次		1または2年次		1または2年次		2-4年次	
	副科目とする場合	1、2、3年次		-		-		-	
選択/必修の別	主科目とする場合	必修		必修		必修		必修	
	副科目とする場合	選択		-		-		-	
時間割	区分	講義		演習		実験実習		特別研究	
	昼間	前期15週	月曜 5限目	火・木曜	4限目	火・木曜	5限目	金曜	5限目
	夜間	前期15週	月曜 6限目	火・木曜	6限目	火・木曜	7限目	金曜	6限目
	備考	授業時間の詳細は、21頁 [医学研究科における授業時間] を参照のこと。 上記の時間に参加できない場合は、担当教員と協議の上、具体的な時間割を決定する。							
授業場所		臨床研究棟10階 呼吸器外科学医局		臨床研究棟10階 呼吸器外科学医局		臨床研究棟10階 呼吸器外科学医局		臨床研究棟10階 呼吸器外科学 他	

担当教員	講義	演習	実験実習	特別研究
	浦本秀隆教授	浦本秀隆教授 本野望講師	浦本秀隆教授 本野望講師	浦本秀隆教授
授業内容	呼吸器外科学の研究に必要な知識として、患者の術前術後の呼吸機能評価、肺癌例をはじめとする胸部疾患に対するCT、PET-CT、胸部MRIの有用性、肺癌の臨床病理学的評価、肺癌の治療成績、および肺癌の分子生物学について講義を行う。 胸腔鏡・気管支鏡などを用いた低侵襲外科治療の現状、抗癌化学療法を含めた集学的治療の臨床試験、分子標的薬剤による肺癌治療等について講義を行う。	呼吸器外科学の研究に必要な実験手法および臨床研究の方法を習得するために演習を行う。それに加えて、得られた結果に対する解析方法・判断方法について指導する。研究セミナーや国内外の学会での発表を通じて、研究のまとめ方、効果的な発表方法・討論方法に関して指導し、学生の問題発見能力と解決能力を高める。	肺癌の分子生物学な解析方法を指導する。臨床病理学的解析の実習を行う。 肺癌例のMR拡散強調画像を検討し、その特性と治療効果・治療成績および予後との比較検討を行う。	肺癌の分子生物学的研究
授業計画（イントラネットに掲載）	講義	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5020701.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5020701.pdf</a>		
	演習	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5020702.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5020702.pdf</a>		
	実験実習	<a href="http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5020703.pdf">http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5020703.pdf</a>		
資格取得などのキャリアパス	外科専門医、呼吸器外科専門医学会、気管支鏡専門医の取得を目指す。			
研究指導教員の実務経験	医師			
履修上の注意事項	①質問の受付は、随時行う。			
	②特別な配慮を必要とする場合は、事前に担当教員に相談すること。			
	③主科目として履修する場合は、1年次に共通科目実験動物学を履修すること。			
	④履修科目届にて履修希望を届け出し、履修年度の2月に、授業科目履修報告書にて、成績を報告することにより、修了要件の単位として認定される。			
	⑤履修報告の際には、履修した科目ごとに「授業改善のためのアンケート」を添付すること。			
オフィスアワー	浦本秀隆教授（臨床研究棟10階 呼吸器外科学教授室） 金曜日 15:00~17:00（事前にメールでの照会必須） e-mail hidetaka@kanazawa-med.ac.jp			